

## 5. 佐和良義神社

大阪府茨木市美沢町 9-27 に鎮座する式内社です。

創建・由緒は詳らかではありません。当社の奉斎氏族も明らかではありませんが、『新撰姓氏録』河内国皇別に武内宿祢の子、平群都久宿祢の後裔であるという「早良臣」が記載されており、この氏族に関係するとする説もあります。ただし憶測の域を出るものではありません。

神社の北方に弥生時代の環濠集落跡である「東奈良遺跡」があり、多数の銅鐸と共に鋳型が発見されています。この鋳型で製造した銅鐸が近畿一円、さらには四国にまで出土しており、東奈良遺跡は全国有数の一大銅鐸製造工場でした。

神社の信仰はこの東奈良遺跡と関係があるとする説があり、御祭神の「迦具土神」は一般に火の神ですが、カグとは銅の古語であり、また社名のサワラも銅器を指すとする説もあります。

一方で境内には「天児屋根命」と刻まれた灯籠があるようで（未見）、天児屋根命を祀っていた時期があったようです。当地周辺は「阿為神社」や

「太田神社」など中臣氏関係の神社が多く、また藤原鎌足の墓であるとする説のある「阿武山古墳」もあり、古くから中臣・藤原氏と関係の深い地でした。また中世以降も興福寺・春日大社の荘園となり、変わらず藤原氏と関係のある地であり続けたようです。

このため創建当初からなのか時代が下ってからなのかは不明ながら、天児屋根命を祀っていたのも然るべきだったことです。

現在は小さな神社ですが、その信仰の歴史は極めて古いものがあるのかもしれませんが。

### 境内の様子

境内入口。鳥居は社殿から 170m ほど南方に建っています。

かつて境内・参道の東方に沿って茨木川が流れており、現在もその堤防が残っています。

旧茨木川は昭和十年（1935年）の水害により付け替えられ、上流側で安威川に合流するようになりました

鳥居をくぐると、旧茨木川の堤防に沿って長い参道が続いています。

参道を進んでいくと、右側からの遊歩道と合流して開けた空間に出ます。この中央やや右側（東側）に樹木と手水舎があり、その奥に社殿が並んでいます。

